



ケアマネだより



★社協理念 : あたたかい手 やさしい心で つなげよう 福祉の輪

★経営方針 : 思いやりと 笑顔の介護で 地域福祉を支えます

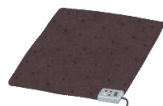
日増しに寒さが身に染みる季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。雪の降り具合も気になりますね。今回は冬に気をつけたい「低温やけど」についてお知らせします。

注意！！低温やけど

44℃程度のほんのり温かく感じる程度のもので、長い間皮膚に接触していることにより、まったく痛みを感じずにやけどが深部にまで進行してしまいます。

低温やけどは、皮膚の表面はあまり変化が見られず軽症に見えることもあります。しかし、深部にかなりダメージを受けている場合もあり、ひどいときには手術が必要になるそうです。

低温やけどの原因になりやすいのは、電気カーペットや電気コタツ、電気毛布や電気アンカ、湯たんぽやカイロなどです。他にも、ファンヒーター、暖房便座、長風呂などが原因で低温やけどになったという事例もあるそうです。たとえば、電気カーペットの上であまり寝返りを打たずぐっすり眠り込んでしまえば低温やけどになる危険性があります。また、使い捨てカイロをパジャマに貼ったり、布団に貼り付けて湯たんぽ代わりに使うのも、低温やけどになりやすいです。高齢者は、脳疾患などで体に麻痺があったり、皮膚の感覚が鈍くなっていたりするため熱さを感じにくいものです。また、疲れきって熟睡したり、睡眠薬を使ったりしても、低温やけどになる危険性が高くなります。低温やけどで肌がヒリヒリしたり皮膚の奥が痛んだりするときは、少しでも早い応急処置が肝心です。清潔な流水でとにかく冷やしましょう。衣服を無理に脱がす必要はありません。衣服の上からまず水を流しかけ、20～30分の間十分に冷やした後は、清潔なガーゼやハンカチなどで覆い速やかに医療機関を受診しましょう。



44℃なら
3～4時間で
やけどとしてし
まいますよ！



湯たんぽ カイロ 電気カーペット 電気こたつ
これらの暖房器具を使ったまま眠ってしまわないようにしましょう。



編集後記：先日久しぶりに山に登ってきました。ちびっ子にもお年寄りにも追い抜かれ、自分の体力のなさを痛感しました・・・
青木

在宅介護支援センター湯之谷
魚沼市大沢213番地1 湯之谷基幹集落センター内
電話：025-792-8184

